

国 語

第1問 次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

国際的にみていくと、一九六〇年代にアメリカで始まった自立生活運動のなかで、障害のある人が「Nothing about us without us! (私たちのことを、私たち抜きで決めてくれるな!）」とアピールしました(有川宏幸ほか「“Nothing about us without us!” がもたらすもの」『日本教育心理学会第五七回総会発表論文集』)。

また、世界保健機関(WHO World Health Organization)では、一九六九年に「リハビリテーションとは、障害の場合、機能的能力が可能なかぎり最高の水準に達するように、個人を訓練あるいは再教育するため、医学的、社会的、職業的手段を併せ、かつ調整して用いること」(中村隆一監修『入門リハビリテーション医学』第三版、医歯薬出版)としていました。

さらに、WHOは国際障害者年にちなんで、一九八一年には「リハビリテーションは、能力低下および社会的不利をもたらすような状態の影響をケイゲンし、能力低下および社会的不利のある者の社会的統合を達成するためのあらゆる手段をホウガンしている」(中村監修、前掲)としました。

I、国際的な障害者団体である障害者インターナショナル(DPI)は、同じ年に「リハビリテーションとは損傷を負った人に対して、身体的、精神的、かつまた社会的に最も適した水準の達成を可能とすることにより、各個人がみずからの人生を変革していくための手段を提供していくことを目指す、時間を限定したプロセスをいう」(中村監修、前掲)と述べました。

このようにWHOは「最高の水準に達する」から「能力低下および社会的不利のある者の社会的統合を達成する」と視点を変えました。また、障害者自身は「みずからの人生を変革して……時間を限定したプロセス」というように他者の支援を受けつつも障害者自身が変革し、さらにXというメッセージを送っています。

これらのケイカのなかで、WHOが一九八〇年に提起した国際障害分類があります。これには、機能障害、能力低下(能力障害)、社会的不利の三段階があり、疾病により機能障害が生じ、それが能力低下(能力障害)、社会的不利をマネク^Eというように一方向に位置づけられました^A。

II、障害者インターナショナルは、すべての人びとがともに考えることである、と提起しました。そして障害者代表、専門職代表、研究者代表のそれぞれの人数が三分の一ずつ集まった会議において、国際障害分類は二〇〇一年に国際生活機能分類(ICF International Classification of Functioning, Disability and Health)に変更されました。

ここでは、すべての人の生活機能を、心身機能・身体構造、活動、参加の三つに分類し、病气やけがをすると、心身機能や身体構造に障害が生じ(機能障害)、活動が制限され、参加が制約

されることになると思いました。

また、機能障害、活動の制限や参加の制約は健康状態だけに起因するのではなく、背景には、^C環境因子と個人因子が関与している、となったのです。環境因子は、人々が生活し、人生を送っている物的な環境や社会的な環境、人々の社会的な態度によってつくられている環境のことで、肯定的な影響（促進因子）または否定的な影響（^B障害因子）を及ぼし得ます。

一般的に、環境因子と聞くと段差、階段などの物理的な環境を思いウカベやすいのですが、それ以上に周囲の人々の本人への態度などが影響しています。私たちの人間関係でも、「あの一言で勇気が出た」、「あの一言でがっかりした」などのように言い方や態度によって、良くも悪くも影響を受けることが多く、障害のある人も同様です。

個人因子は、年齢、性別、社会的な状況、人生での経験などです。

かつての国際障害分類では、機能障害から能力低下（能力障害）、さらに社会的不利にと一方向に進みました。ともすると社会的不利にならないために、機能障害の改善や能力の向上にとらわれすぎると、理学・作業・言語聴覚療法を長期間^カケイゾクすることが第一になりかねません。

国際生活機能分類では、心身機能や身体構造、活動、参加は一方向ではなく、それぞれ双方向の関係で成り立っているとなりました。参加を経験することにより自分に対して少し自信がついて落ち着きを取り戻すと、自分の状態を再認識しやすい心理状態になります。そしてそれにより活動が展開された結果、機能の改善に結びつく、あるいは自主練習により機能が改善することが可能になることも示しています。

このように、一九六〇年代から立場の違いによりさまざまな意見がありました。しかし、二一世紀に入り、例えば障害のある人の問題を討議するときには、障害のある人と実務者、研究者の人数が三分の一ずつ同じテーブルについて討議し、意見を集約するかたちが世界基準となつてきたと思います。

日本でも、二〇〇九年に「障がい者制度改革推進会議」が設置され（二〇一二年、廃止）、二六人の構成員のうち一四人が障害のある人とその家族でした。これをきっかけにして、二〇一六年四月に「障害を理由とする差別の解消の推進に関する法律（いわゆる「障害者差別解消法」）が施行されました。

これまで、障害のある人への対応は^Yの視点から支援していましたが、この法律によって人権の視点に変わりました。障害のある人が、みずから発言、行動し、これまでの「^キメイワクをかけるのではないか」という^クケネンは^オ払拭していき、障害のある人もない人も双方向に発言、行動し、学びあう社会への道が開かれました。今後、全国の障害のある人に関する審議会で、障害のある^Zが全体の人数の三分の一参画することが標準になれば、障害者の差別を解消する方向へさらに促進されるでしょう。

そのことを踏まえて、私なりにリハビリテーションを次のように考えています。ただし前提と

して、私は脳卒中などの中途障害のある人（人生のなかばで障害をおった人）との付き合いがほとんどですので、ここではその人たちを念頭に置いています。

私は自著の『脳卒中者のリハビリテーション』（一九九三年）で、リハビリテーションは人に対して用いる言葉とし、その意味から、「脳卒中のリハビリテーション」ではなく「脳卒中者のリハビリテーション」としました。

そして、その中で、リハビリテーションとは「なんらかの疾患を契機にして障害が残った人が、病前の生活の転換をヨギなくされ、家族を含めて新たに張りのある生活を再構築していくことである。さらに、障害者、老人などが住みやすい社会にしていくことも目的にする」としました。いまは、次のように考えています。

リハビリテーションとは、「何らかの疾病、外傷などに起因する障害のある人が、身体・認知能力の改善を図りながら、心理的に立ち直って主体的に活動して社会参加をはたすこと。さらに支援の『受け手』でありながら『支え手』をニナうこともあり、地域に住む人々が障害のある人と双方向に学びあう社会をめざすこと」です。

（長谷川幹『リハビリ 生きる力を引き出す』による。問題作成の都合上、省略した箇所がある。）

（注） 因子——ものごとの原因となる要素。

問1 二重傍線部ア～コのカタカナを漢字に改めよ。（楷書で記すこと。）

ア	ケイゲン	1
イ	ホウガン	2
ウ	ケイカ	3
エ	マネク	4
オ	ウカベ	5
カ	ケイゾク	6
キ	メイワク	7
ク	ケネン	8
ケ	ヨギ	9
コ	ニナう	10

問2 傍線部 a～d の漢字の読みをひらがなで記せ。

a	併 せ	11
b	阻 害	12
c	払 拭	13
d	図 り	14

問3 空欄 I・II に共通して入る語として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 15

- ① このように ② 例えば ③ したがって ④ これに対し ⑤ むしろ

問4 空欄 X に入る言葉として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 16

- ① ずっと支援を受け続けるのではない
② できるだけ早い社会への参加を目指す
③ 最高の水準の支援を求めていく
④ 訓練や再教育という考えを排除する
⑤ 当事者としての意見を主張していく

問5 空欄 Y・Z に入る語の組み合わせとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 17

- | | | | |
|---------|------|--------|-------|
| ① Y―個人 | Z―社会 | ② Y―福祉 | Z―当事者 |
| ③ Y―理想 | Z―団体 | ④ Y―量 | Z―生活 |
| ⑤ Y―専門家 | Z―老人 | | |

問6 傍線部A「一方向に位置づけられました」とあるが、このことに対する筆者の考えとして最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 18

① 病気やけがによる心身機能や身体構造の障害のために、社会的活動や参加も制約され「社会的不利」をまねいてしまう。

② 理学療法士などの専門家から障害のある人への療法というアプローチだけでは、身体的機能は改善されるが「社会的不利」は免れない。

③ 最終段階である「社会的不利」をまねかないための機能改善が第一目標となり、理学・作業・言語聴覚療法が長期化してしまう。

④ 「社会的不利」をもたらす状態を避けるためには、健康状態だけでなく背景にある環境因子の観察が必要であると認識されていない。

⑤ 心身機能や身体構造、活動、参加を一方向に捉えると、「社会的不利」を避けるためのリハビリを進めることができない。

問7 傍線部B「国際生活機能分類」とあるが、どのような特徴があるか。最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 19

① 機能障害の改善↓活動↓参加という方向性を定義し、障害のある人の精神的な立ち直りを重視して社会参加を最終的な目標としている。

② 障害のある人が、人間関係において周囲の人々の発言や態度によって影響を受けるのを避けるために、環境因子の影響を重視するべきだとしている。

③ 心身機能や身体機能が制限されたり活動や参加が制約されたりするのは、健康状態よりも環境因子と個人因子に大きく作用されると位置づけている。

④ D P Iの「すべての人びとがともに考える」という提起により、障害のある人の意見を反映させるために、会議への出席人数の増加を目標に作られた。

⑤ 参加↓活動↓機能障害の改善という方向性に着目し、障害のある人の健康状態と生活機能は双方向に作用するとしている。

問8 傍線部C「環境因子」とあるが、どのようなものか。具体例として適当でないものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 20

- ① 自宅が階段や段差のないバリアフリーの状態であるかどうか。
- ② 入院や通院などに備えて医療保険に加入しているかどうか。
- ③ 日常生活の援助を頼むことのできる家族がいるかどうか。
- ④ 機能回復のためのリハビリテーションへの意欲があるかどうか。
- ⑤ 交通機関やタクシーなどの利用が可能な地域に住んでいるかどうか。

問9 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 21

- ① 「国際障害分類」は、病気や障害のある人など特定の人に対して障害の分類を示したものであり、「国際生活機能分類」は、健康な人を含めたすべての人に対して障害を負った場合の分類を示したものである。
- ② WHOのリハビリテーションに対する視点は、一九六〇年代から一九八〇年代にかけて機能回復を重視するものから社会参加を目的とするものに変化し、社会参加を妨げる原因となる疾病の予防を提言している。
- ③ 筆者は、障害のある人となない人が双方向に学び合う社会こそが障害者への差別を解消すると考え、機能の改善以前に心理的な立ち直りや社会参加を目指すことがリハビリテーションの重要な課題であるとしている。
- ④ WHOとDPIは、立場の違いからリハビリテーションの捉え方が異なり、WHOが専門家を主体とする「国際障害分類」を提起したのに対し、DPIは障害者を主体とする「国際生活機能分類」を提起した。
- ⑤ リハビリテーションについての概念は、社会的不利をまねかないようにするための身体的機能の回復を重視する方向から、社会的活動や参加に加えて地域の一員としても活躍できるところを重視する方向へと変化した。

第2問

次の文章を読んで、後の問いに答えよ。

次の文章は、中院の行幸に参列した中納言と、中納言に思いを寄せる麗景殿れいけいでんの女性とが歌を交わす場面である。中納言は、幼い時から男性として育てられているが、実は女性である。中納言は自分が女性であることを周囲に気づかれないよう男性を演じている。

その年の五節アに、中院の行幸ありければ、みな人々小忌注にて参る中に、宰相中將、権中納言の青摺あせりの、いとみじう見ゆ。宰相はいとそそろかにををしくあざやかなるさまして、なまめかしう注よしあり色めきたる気色、いとをかしう見ゆ。中納言は、はなばなと見れども見れども飽くまじう、にほはしくこぼるばかりの愛敬あいきやう似るものなきに、もてなし有様も、さは言へどなごやかにたをたをといとなついかしきほどの、人にこよなくすぐれて目もあやなるを、御方々の人々をかしと見るに、宮の宰相は、いささかも人のけはひする所はただにも過ぎず、必ず立ちどまりものなど言ふを、中納言は見る目に違たがひて、宰相の行きもやらず滞りがちなるを後目しりめに見おこせつつ過ぎぬるを、檜隈川注ならば、「しばし水かへ」ともうち出いでつべく、みな見送らるる中にも、染注みていみじと思ふ人ありけり。御随身のたち遅れて参れる、申すべきことあり顔に気色ばみて候へば、「何事ぞ」と問はせたまへば、「麗景殿の細殿の一の口iiにうちまねきとどめて、『参らせよ』とはべりつる」とて、いみじう艶なる文取り出でたり。「あな、おぼえな」とて見たまへば、

C逢ふことはなべてかたきの摺衣すりえかりめに見るぞ静しづ心なき

と、いとをかしげなるを、あやし、誰たれならんと、うちほほ笑まれて、騒がしければ返事かへりごともせず。

情けなくやと、いとほしき注に、こと果ててみな人も静まりぬるに、夜深き月のいと明あかく澄めるに麗景殿の細殿をとかくたたずみて、

逢ふことはまだ遠山の摺目すりめにも静心なく見ける誰なり

注とうそぶくに、人声もせず。人もなきにやと思ふに、文出だしつる一の口に、

めづらしと見つる心はまがはねど何ならぬ身の名のりをばせじ

と答へたる気色も、なべてえならずをかしかなり。立ち寄りて、

「名のらずは誰と知りてか朝倉やこのよのままも契り交はさん

注こや、かたきの摺衣なりける」など、そこはかとなく言ひすさむけはひの、近まさはたなつかしいみじく愛敬あいきやうつきたるを、いとど心にしみてをかしと思ふに、のどやかに立ちたまへる、いかがあらんと、いとつつましうややましけれど、世の常のさまに乱れ入りなどすべうもあらず。女も、女御の御妹やうの人なるべし、なべての気色ならずと見知らるれば、情けなからぬaほどに語らひて、人々来る音すればうち忍びてたち別わかれぬ。

かやうに一目も見る人の、心をつけて待ち思おぼさんところも人の聞き伝へんことも知らず聞こえごちかかあるあまたあれど、人のほどかろらかならずいとをかしかりぬべければ情けなからぬほど

に折々言ひ交はし、^(注)さらぬかきませのほどは知らず顔にて聞き過ごし、いとこよなくもの遠くもてをさめたまへるを、玉の瑕と飽かぬことに思ふ人々あり。この宰相の、あまり過ぐさずたづね寄り言ひかかりうかがひ歩くを、^(あり)をかしと思ふ人多かりけり。

『とりかへばや物語』による

(注) 中院の行幸——五節の卯の日に天皇が中和院に赴き、自ら神事を行う儀式。

小忌——装束しやうそくの上に着用する衣。神事に奉仕する際に用いる。

宰相中将——中納言の親友。「宮の宰相」「宰相」と同一人物。中納言が本当は女性であることには気づいていない。

青摺——藍あゐなどからとった染料で花や鳥などの模様を染め出した布でできた衣服。

そそろかにををしく——背がすらりと高く男らしく。

さは言へどなごやかにたをたと——男として振る舞っていてもやはり女なので柔らかにしなやかで。

目もあやなるを——まばゆいばかりであるのを。

檜隈川ならば、「しばし水かへ」ともうち出でつべく——有名な古歌をふまえた表現。ここは、「あなたの姿を

しばらく見ていたいと口に出して引きとめたいと思い

ながら」ということ。

染みていみじと思ふ人——中納言のことを身に染みてすばらしいと思う女性。

こと果てて——五節の行事が全て終わって。

うそぶくに——口ずさむが。

こや、かたきの摺衣なりける——先程、かたきの摺衣とおっしゃったのは、こういうことだったのでですね。

言ひすさむけはひ——言い戯れている様子。

乱れ入りなど——無理に部屋に押し入ることなど。

人のほど——人の身分。

さらぬかきませのほど——そうではない平凡な身分。

問1 傍線部ア～ウの古語の読みを、現代仮名遣いを用いてひらがなで記せ。

ア 五節 22

イ 文 23

ウ 女御 24

問2 波線部あゝえの語句の本文中での意味として最も適当なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

あ なまめかしう

25

- ① かたくなで
- ② いたいけで
- ③ 物静かで
- ④ はでで
- ⑤ 優美で

い なつかしきほど

26

- ① 親しみのあるところ
- ② 懐かしいところ
- ③ 古風なところ
- ④ 上品なところ
- ⑤ 趣味のよいところ

う いとほしさに

27

- ① さみしいので
- ② おとなしいので
- ③ 気の毒なので
- ④ 残念なので
- ⑤ 心配なので

え なべてならず

28

- ① 一般的ではなく
- ② 一様でなく
- ③ 思いがけなく
- ④ 並々ではなく
- ⑤ 異様で

問3 二重傍線部 i 「申す」・ii 「たまへ」の敬語の説明として最も適当なものを、次の①～⑥

のうちからそれぞれ一つずつ選べ。 i ii

- ① 謙讓語で、隨身から中納言に対する敬意である。
- ② 謙讓語で、作者から中納言に対する敬意である。
- ③ 謙讓語で、作者から隨身に対する敬意である。
- ④ 尊敬語で、作者から隨身に対する敬意である。
- ⑤ 尊敬語で、作者から中納言に対する敬意である。
- ⑥ 尊敬語で、隨身から中納言に対する敬意である。

問4 二重傍線部 a～c の「ぬ」の文法的意味として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから

それぞれ一つずつ選べ。同じものは二度選べない。 a b c

- ① 過去
- ② 完了
- ③ 強意
- ④ 打消
- ⑤ 存続

問5 傍線部 A 「中納言は、はなばなと見れども見れども飽くまじう、にははしくこぼるばかり

の愛敬似るものなき」とあるが、中納言のどのような様子を表しているのか。最も適当なもの

- ① 華やかさで対抗しようとする人などが誰一人いない様子。
- ② 大変飽きっぽい性格ではあるが、とてもかわいげがある様子。
- ③ 美しさも愛らしさも、他に匹敵するような人がいない様子。
- ④ とても魅力的な香りと、美しい容貌を兼ね備えている様子。
- ⑤ 飽きることなく、趣味の薰物なまものにいそしんでいる様子。

問6 傍線部B「あな、おぼえな」とあるが、どういうことか。最も適當なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 35

- ① 自分のことを忘れられてしまい悔しくて仕方がないということ。
- ② このような手紙をもらう心当たりがないということ。
- ③ 手紙の返事をするのをすっかり忘れていたということ。
- ④ 以前にも手紙をもらったことを思い出したということ。
- ⑤ もらった手紙をいい加減に扱うわけにはいかないということ。

問7 傍線部C「逢ふことはなべてかたきの摺衣かりめに見るぞ静心なき」の和歌の「かたき」の部分には「難き（難しい）」と「形木（模様を摺るのに用いる板木）」の二つの意味が込められている。Xこの修辞技法を何というか。また、Yこの歌にうたわれる麗景殿の女性の心情とはどのようなものか。最も適當なものを、次の各群の①～⑤のうちからそれぞれ一つずつ選べ。

X 36

① 枕詞まくらことば

② 序詞

③ 縁語

④ 本歌取り

⑤ 掛詞かけことば

Y 37

- ① 逢おうと思ってもなかなか逢えないあなたの姿を少し見ただけで、私の心は摺衣のように乱れるのです。
- ② あなたに逢うことができず悲しみに打ちひしがれる私は、あなたの摺衣になってそばにいたいと願うのです。
- ③ あなたの姿を見られるのは特別な行事のときだけなので、あなたの摺衣の模様を目にやきつけておきましょう。
- ④ 高貴なあなたが青摺の衣でお通りになっただけで、世の女性はあなたに恋をして夢のなかにいるような気持ちになるのです。
- ⑤ あなたの姿を遠くからでも見てしまったために、逢いたい気持ちを抑えることができなくなってしまったのです。

問8 傍線部D「のどやかに立ちたまへる、いかがあらん」とあるが、中納言と歌の贈答をしている女性の心情として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 38

- ① 歌の贈答中に立ち上がった中納言の行動を見て、無風流な人だと印象を改めている。
- ② 歌を交わす以上の行動に出てこない中納言の気持ちを計りかねて、とまどっている。
- ③ 歌を交わしたあとに月を眺めている中納言のたたずまいに、ますます好感を抱いている。
- ④ 中納言がこの場を立ち去ろうとしているので、冷淡さを憎く思っている。
- ⑤ 和歌に加えて立ち居振る舞いもすばらしい中納言に、気持ちを抑えられないでいる。

問9 傍線部E「玉の瑕と飽かぬことに思ふ人々あり」とあるが、人々は、中納言のどのような点を玉に瑕だと思っているのか。その内容として最も適当なものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 39

- ① 自身に言い寄ってくる女性の対応を、女性好きの宰相に任せていた点。
- ② 自身に言い寄ってくる女性に対し、すべて手紙のやりとりのみとしていた点。
- ③ 自身に言い寄ってくる女性の身分が高くても、深くかわらうとしなかった点。
- ④ 自身に言い寄ってくるどの女性にも、自分の正体をあかさなかつた点。
- ⑤ 自身に言い寄ってくる女性が多くなるほど、そつけない対応をするようになった点。

問10 本文の内容に合致するものを、次の①～⑤のうちから一つ選べ。 40

- ① 隨身から女性の和歌を受け取った中納言が麗景殿に足を運ぶことはなかった。
- ② 行幸に参列した中納言は声をかけてくる女性がいると立ち止まり言葉を交わした。
- ③ 女性に興味のない中納言とは対照的で好色な宰相の中将は女性から人気がなかった。
- ④ 世間の評判になることもいとわずに中納言に言葉をかけてくる女性は多かった。
- ⑤ 中納言は行幸に参列する以前にも麗景殿の女性と歌を交わしたことがあった。